

ヨットを教えています

僕はパラオの海で

パラオでの活動記録
「悠パラ日記」



SENDA YUTO

仙田 悠人

JPSYC* × JICA 青年海外協力隊

島根県松江市出身、2023年法学部卒業。大学時代にヨット部で活躍した経験が買われ、JICA青年海外協力隊員としてパラオに着任。初めてパラオの海を見た時は、あまりの美しさに言葉を失ったという。



魚釣りで
大物GET!

※Japan and Palau Youth Sailing Club 日本パラオ青少年セーリングクラブ

H SEA

何してる？ YOU IN?



パラオ初のヨットレース『パラオカップ』の企画から運営までを担当



子供たちがめきめき成長していくのを、肌で感じられるのがやりがい

人生を変えた、ヨット部

ヨットをはじめたのは大学に入ってからですが、毎年「全日本学生選手権」に出場するくらい充実したヨット人生を送っていました。海上で過ごす時間は非日常で、すっかり魅了されてしまったんです。パラオに来ることになったのは、大学4年生の11月に、ヨット関係者から突然「パラオに行かない？」と誘われたのがきっかけ。卒業後は法曹界に進もうと大学院に進学する準備を進めていたことが、大学時代に海外に出られなかったことを後悔していたこと、心の底では卒業後もヨットに関係する仕事をしてみたいと思っていたことから、誘いに乗ることに。パラオでの任務は、子供たちへのセーリング指導とパラオの伝統的カヌーの保存活動。2032年のブリスベンオリンピックに向けて選手育成の準備を進めたり、パラオの伝統的な航行技術のワークショップを主催したりしています。

ワクワクする道を進め！

活動のなかで、自分が特に人の役に立っているなと感じるのは、ヨットに関する書類を書くときやSNSを活用して海外に向けた情報発信をするとき。大学では判例研究のゼミに所属しており、そこで身に付けた三段論法などの文章を書くテクニック、莫大な量の文献を調べる能力が大いに役立っています。

振り返ると、かつての私は、未知の世界に飛び込むことに恐怖心がありました。しかし一歩を踏み出してパラオに来たことで、自分の可能性を信じてチャレンジする力、自分がやりたいことをやりぬく力が養われたと強く感じます。学生の皆さんにはどうか、最初の一歩を踏み出すことを恐れずにいてほしいです。迷ったら、どちらが得になるかを考えるのではなく、自分がワクワクする方を選んでください。それがきつと、あなたの世界を変えるきっかけになります！